

平成30年度 県西地区交通安全大会

主催 神奈川県教育委員会
神奈川県立高等学校等交通安全教育推進協議会
神奈川県立高等学校PTA連合会県西地区協議会
協賛 一般財団法人 神奈川県立高等学校安全振興会
後援 神奈川県立学校長会

- 1 テーマ 「まあいいか」その一言が大きな事故に
～身を守れるのは自分だけ～
- 2 日時 平成30年11月14日(水)13時30分～16時30分
- 3 会場 南足柄市文化会館 金太郎みらいホール
- 4 参加者 279人
- 5 日程 (次第)
 - (1) 開会式
 - [1] 開会のことば 吉田島高等学校 加藤 駿弥 さん
 - [2] 主催者挨拶 交通安全教育実行委員会 県西地区代表
吉田島高等学校長 中戸川 啓二 様
 - [3] 来賓挨拶 一般財団法人
神奈川県立高等学校安全振興会理事長 柳川 秀史 様
 - (2) 生徒研究発表
 - 1 足柄高等学校 発表 「交通安全委員会活動報告」
 - 2 西湘高等学校 発表 「交通安全委員会活動報告」
 - 3 小田原東高等学校 発表 「イヤホンさし運転の恐怖」
 - 4 大井高等学校 発表 「大井高校の交通安全教室」
 - 5 小田原城北工業高等学校 発表 「ブタはしゃべる」
 - (3) 助言者指導講評
神奈川県教育局指導部保健体育課 主幹兼指導主事 府川 秀雄 様
 - (4) 各種優秀作品表彰・大会宣言
 - 表 彰 吉田島高等学校長 中戸川 啓二 様
 - 大会宣言 山北高等学校 八嶋 一稀 さん
 - (5) PTA事例発表 小田原高等学校PTA
通学中の歩きスマホについて
～気付いてほしい!被害者にも加害者にもなることを～
 - (6) 全体講評 松田警察署 警部 交通課長 佐藤 正三 様
 - (7) お礼の言葉 吉田島高等学校PTA会長 尾崎 和 様
 - (8) 閉会式 閉会の言葉 吉田島高等学校 伊藤 龍生 さん

ご挨拶

神奈川県立高等学校PTA連合会（以下県高P連）の本年度の活動方針は「生命尊重の理念に立つ」ことを掲げており、交通安全を大事に考えています。本大会は、県高P連が「子供たちの交通安全に対する意識の向上を図る」ことを目的とし、県下10地区で毎年開催しています。

県西地区では、交通安全教育として地元警察署による交通安全講話の開催をはじめ、PTAが協力して業者による通学用自転車点検や登下校調査などの活動を行う学校が多く、万が一の補償に備え自転車通学者に対して保険加入を義務づけている学校もあります。また、ヤングライダースクールやスケアードストレイト式交通安全教室などを導入する学校もあり、交通ルールを守ることの重要性はもちろん、交通事故は決して他人事ではないということを伝えています。被害者や加害者それぞれの立場を考え、関わる全ての人の思いやその後の生活などを想像し、「命の大切さ」や「今の自分がすべきこととは何か」を学びながら、交通安全への関心を高めて欲しいものです。

本大会も交通安全教育の一環とし、6月に行われた高校生会議で決めたテーマをもとに高校生の視点でさまざまな角度から問題を提起し、話し合いを重ね本日の発表を迎えました。各校の発表をご覧になり、教師と保護者も一緒に考え、深められる場となりましたら幸いです。そして、私たち大人ができることの1つとして、子供たちとあいさつを交わす際には、「気を付けてね」と一言添えていただければと思います。

神奈川県立高等学校PTA連合会 県西地区連絡協議会会長代行
神奈川県立小田原城北工業高等学校PTA副会長 安田奈々

県西地区交通安全高校生大会 大会宣言

「交通規則」とはみんなが守らなければいけないルールです。

これを守らなければどうなるか皆さんは想像できますか？

交通事故はいつ起こるのか、交通事故によっていつ加害者、あるいは被害者になるのか、それは誰にも予測できません。たった1回の交通事故でその人のこれからの人生、生活を一変させてしまいます。しかし誰でも交通事故が起きる可能性を低くすることはできるはずです。

例えば交通量が多いところなどでは、普段より自転車のスピードを緩めたり、信号が青から赤に変わる直前は渡らないなど、少し面倒だけでも誰でもできることを続けていければ、交通事故の起きる可能性を低くすることができます。みなさんも日常生活の中で変えられることがたくさんあるはずです。一人一人が気をつけていれば交通事故を減らすことができます。

交通規則を守ることを心がけ、より安全な交通社会を作り上げていくことを誓い、大会宣言とさせていただきます。

平成30年11月14日
神奈川県立山北高等学校代表
八嶋 一稀

【生徒研究発表】

(各学校の紹介文より)

(1) 足柄柄高等学校 発表

「交通安全委員会活動報告」

私たちの学校では、自転車で通学している生徒数が多いため、定期的に自転車点検を行ったり、安全に下校できるようにするための下校指導を行ったりしています。また、今年は生徒の皆さんに交通安全についてより理解を深めてもらう為に交通安全教室を開催しました。



(2) 西湘高等学校 発表

「交通安全委員会活動報告」

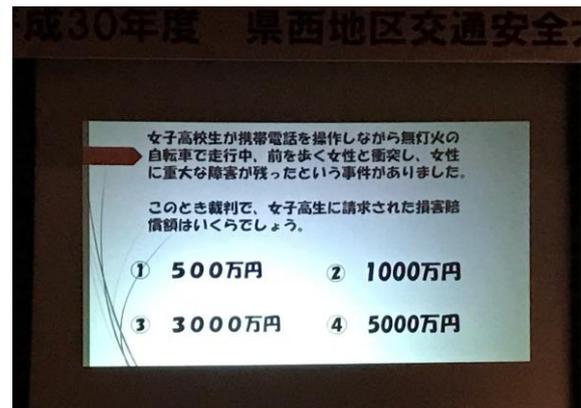
本校、交通安全委員会は1年生のみで構成されています。

今年度は交通安全講話などで発表した、危険予測トレーニングなどの活動を紹介します。



(3) 小田原東高等学校 発表

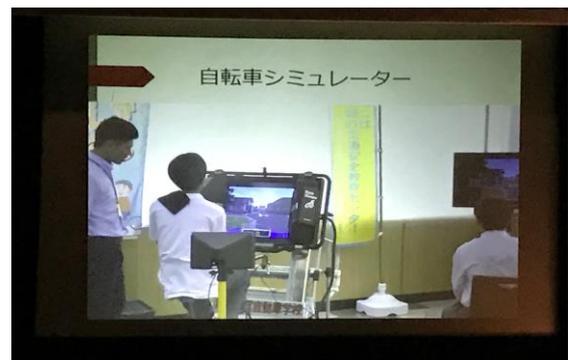
最近よく「イヤホンさし運転」が問題視されています。イヤホンをさしながら運転することがどれほど危険な行為か？何故この問題はなかなか改善されないのか？を調査し、話し合った内容について発表します。



(4) 大井高等学校 発表

「大井高校の交通安全教室」

大井高校では1～3学年の各学年で、交通安全教室を行っています。どのような内容で行っているのかを発表します。

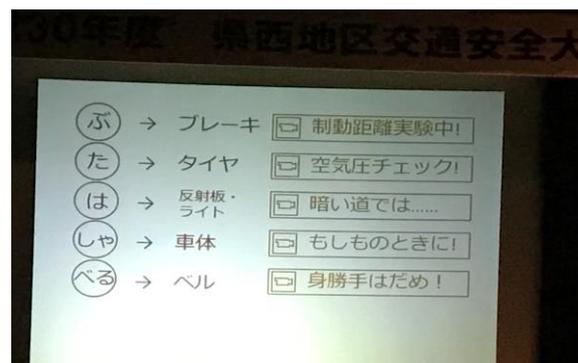


(6) 小田原城北工業高等学校 発表

「ブタはしゃべる」

普段何気なく使っている自転車。ちょっとそこまで、通勤や通学などさまざまな場面で活躍する便利な乗り物ですが……。あなたの自転車は安全ですか？

「ブタはしゃべる」を合言葉にあなたの自転車を点検しましょう！



<生徒研究発表への講評>

足柄高等学校の発表は、どのような形で交通安全委員会が行われているのか伝わってきました。会議から始まり、自転車点検までいろいろありました。また、新たな取り組みとして、下校指導もされているとのことでした。交通安全委員を中心に学校の中で交通安全を進めていただけたらと思います。

西湘高等学校の発表は、実演がありました。刺激の伝達などとてもわかりやすいものでした。学校周辺での危険箇所などを写真でわかりやすく説明していただきました。

小田原東高等学校の発表は、イヤホンの危険ということでクイズ形式を取り入れた発表で説明していただきました。クイズ形式はとてもわかりやすく参考になりました。

大井高等学校の発表は、3年間にわたる交通安全講習会があり、これを通して交通社会の一員として安全への理解を深めていただきたいと思います。

小田原城北工業高等学校の発表は、私たちの普段使う自転車について、「ブタはしゃべる」の言葉と同時に日々の点検を怠らず、安全確認をしまいたいと思いました。

各高校の発表ともとてもわかりやすく、今後、学校の中で交通安全のリーダーとして活躍していただきたいと思います。発表を通して改めて、交通安全啓発活動の重要性を感じました。

(神奈川県教育委員会保健体育課指導部

主幹兼指導主事 府川 秀雄様)

【各種優秀作品表彰・大会宣言】



P T A 事例発表

小田原高等学校 P T A

「通学中の歩きスマホについて」

～ 気付いてほしい！

被害者にも加害者にもなることを～

小田原高校では生徒達は百段坂と呼ばれる心臓破りの坂を上がって登校しています。

安全面を配慮し、駅から学校までは自転車通学が禁止となっています。

スマホの普及とともに社会問題となっている歩きスマホに注目しました。子供たちが歩きスマホの被害者や加害者にならないための危険性や対策について考える機会にしてほしいと思い、アンケートによる実態調査を行い、生徒への働きかけを通じて、課題を見出すことができましたので発表させていただきます。



今回の調査において、歩きスマホの危険性を認識している生徒は多く、さらに歩きスマホの指導を行うと「歩きスマホはしない」と思う生徒も多いことがわかりました。実際に歩きスマホをしないように意識されるようになりました。

今回の調査では、生徒への働きかけを2回、保護者への働きかけを1回行った。今後も定期的な実施をしていきたい。また、生徒が歩きスマホをしないことを習慣やマナーとして身に付けるために効果的な方法を考えていきたい。

<全体講評>

今回の大会テーマ、「まあいいか」その一言が大きな事故に～身を守れるのは自分だけ～まったくその通りだと思います。みなさんが感じて、どちらがいい、どちらが悪いではなく、事故に遭わないようにどうすべきか考える。事故に遭った場合、弱者の方が怪我をしてしまうことが多いので、そうならないように自分で気をつけていただくことが一番重要なことと思います。

県警察でもいろいろな施策をしていますが、一番は安全教育であります。運転手、歩行者、自転車に乗っている方、その方たちが自分で事故に遭わないように、起こさないように教育していくことが一番であると思っています。

各校の発表とも、自転車のことについてというものが多かったように思います。やはり、高校性ということで自転車通学も多いでしょうし、普段

から利用する機会も多いことからだと思います。みなさん、いろいろ研究し、いろんな活動をなさっていただいて、交通安全について深く高校生が意識を持って取り組んでいることに嬉しく、また、事故防止にもつながるのではないかと思います。これからは、そういう意識を全校の生徒みなさんへ伝えて、みんなが意識を持っていただくと交通事故も少しずつ減るのではないかと思います。

これからも、このような活動を続けていただけたらと思います。

(松田警察署 警部 交通課長 佐藤 正三 様)

作文最優秀作品 「自分は大丈夫」は嘘 小田原東高校 3年 佐藤那海

私は交通事故に遭ったこともないし、間近で見たこともありません。でも、知人が交通事故に遭うというのは何度かありました。とはいえ、いずれも運よく助かっています。その度に私は、その人が生きていて良かったと思います。でも、もし打ちどころが悪かったら、とか、もう少し自転車のスピードを上げて走っていたら、などと考えるととても怖い思いがします。今は元気に生きているその人たちが、もしかしたらいなくなっていたかも知れないからです。しかし、交通事故で大切な人を亡くしている人が世の中にはたくさんいます。いつそれが自分自身の身に降りかかってもおかしくないと思います。知人が交通事故に巻き込まれて亡くなってしまうかもしれないとか、自分が轢かれて死んでしまうかもしれないなどというようなことは考えない方がいいのですが、私はよくこんなことばかり考えてしまいます。「死んだらどうなってしまおうだろう」ということも。

でも、私は、人間はいつも危険と隣り合わせと思いながら生きていたほうがいいのではないかと思います。その方が、絶対とは言えないまでも事故の危険性は少なくなるのではないかと思います。「細心の注意を払う」というのはこういうことを言うのかもしれない。

交通事故に巻き込まれるのと同じくらい交通事故を起こす危険性もあります。原因の多くに飲酒運転や無免許運転もあると思います。これらをなくすのは不可能に近いと思います。

「事故を起こすかもしれない」という考えがそういう人にははじめからなく、平気でやっつけてしまっただけで「そんなつもりはなかったのに」となるのです。あるいは自分が死んでしまうかもしれないなどと多くの人は普段考えないと思います。「自分は大丈夫」実はこれ、いちばん危険な考え方なのではないでしょうか。

平成 30 年度各部門作品表彰者

| | | | | |
|-----------|-----|-----------|----|-------|
| 大会テーマ | 最優秀 | 足柄高校 | 2年 | 齋藤まどか |
| 標語の部 | 優秀 | 山北高校 | 2年 | 磯崎明日香 |
| | 佳作 | 小田原高校 | 1年 | 手島彩希 |
| | 佳作 | 小田原高校 | 1年 | 増田太一 |
| | 佳作 | 小田原城北工業高校 | 2年 | 内藤万智子 |
| | 佳作 | 山北高校 | 2年 | 川崎柊利 |
| 作文の部 | 最優秀 | 小田原東高校 | 3年 | 佐藤那海 |
| | 優秀 | 小田原東高校 | 3年 | 杉山南歩 |
| | 佳作 | 小田原城北工業高校 | 2年 | 小川雛 |
| ポスターの部 | 最優秀 | 西湘高校 | 1年 | 古和田彩水 |
| | 優秀 | 足柄高校 | 2年 | 朝倉滯奈 |
| | 佳作 | 山北高校 | 2年 | 熊谷みなも |
| | 佳作 | 小田原城北工業高校 | 3年 | 薄井玲佳 |
| | 佳作 | 小田原城北工業高校 | 2年 | 湯川姫菜 |
| 4コマ漫画の部 | 優秀 | 小田原城北工業高校 | 2年 | 石垣愛海 |
| | 佳作 | 足柄高校 | 3年 | 岩本実紅 |
| | 佳作 | 西湘高校 | 2年 | 西端華菜 |
| シンボルマークの部 | 最優秀 | 西湘高校 | 2年 | 出島妃明香 |
| | 優秀 | 山北高校 | 2年 | 五味若葉 |
| | 佳作 | 山北高校 | 2年 | 上村虎太郎 |

【大会を終えて】各参加校の方々は長期に渡り準備をされました。各学校の関係者のみなさまの努力が大きく実を結んだ大会になったと思います。ご協力ありがとうございました。

特に、生徒たちが率先して大会全体の準備、運営、進行を担当してくれたこともとてもよかったです。

(事務局)